

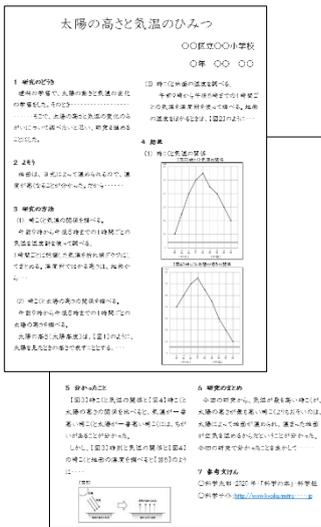
「令和6年度 東京都小学生科学展」の作品について

1 作品の内容

- 都内の公立小学校（義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部を含む。）に在籍する第1学年から第6学年の児童が、自分で決めたテーマについて研究した成果を表したものとします。
- 理科、算数、科学技術など、理数に関する内容であるものとします。

2 作品の大きさやまとめ方

- 研究内容をA3判（420mm×297mm）縦2枚の紙にまとめたものを学校に提出します。これより大きいものや小さいもの、枚数がちがっているものは受け付けられません。
- 手書きだけでなく、パソコンを使うこともできます。また、写真や図、表なども貼り付けることができます。



★作品を提出する前に、以下の内容について御確認ください。

- 学校名、学年、氏名が記載されているか。
 - * 1組等、クラス名は入れないこと。
- 必要事項の記入漏れはないか。
- 出典や参考が記載されているか。
 - 書籍：著者名・発行年・タイトル・出版社
 - ホームページ：サイト名・URL
- グラフなどに単位が記載されているか。
- 商品名などの固有名词等が使われていないか。
- 「である」「です」といった文体（常体と敬体）がそろっているか。
- 誤字・脱字は、ないか。
- 人権上、問題となる表現等が使用されていないか。
- 実験過程での、安全・安心の原則を、順守しているか。
 - * 危険な行為、危険が予想される実験方法は避けること。

3 「令和6年度 東京都小学生科学展」の展示と発表について

- 区市町村及び都立学校ごとに代表となる作品を展示します。

(1) 開催 ①	展示期間 令和7年1月10日（金）～12日（日）
	場 所 日本科学未来館（江東区青海2-3-6）
(2) 開催 ②	展示期間 令和7年1月24日（金）～26日（日）
	場 所 東京たま未来メッセ（八王子市明神町3-19-2）

- 区部開催、市部開催ともに、展示内容は同じです。
- 代表児童は、会場で一人一回10分程度の口頭発表を行います（区立・島しょの小学校は1月11日（土）、12日（日）のどちらか、島しょを除く市町村立小学校は1月25日（土）、26日（日）のどちらかを予定しています。）。
 - 代表児童の作品は、科学展終了後、氏名、所属校名とともに作品のPDFデータを東京都教育委員会ホームページに掲載します。また、作品をまとめた作品集CDを作成して、代表児童、都内全小学校等に配布します。

令和6年度の東京都小学生科学展の開催案内、令和3年度～令和5年度の東京都小学生科学展の概要及び各区市町村の代表作品を東京都教育委員会ホームページに掲載しています。

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/science_exhibition.html



問い合わせ先	東京都教育庁指導部義務教育指導課 東京都小学生科学展担当
	所在地 〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号
	電話 03-5320-6841

※ 区市町村の募集方法につきましては区市町村教育委員会に、都立学校の募集方法につきましては都立学校にお問い合わせください。

教師用「指導のポイント」

教師用「指導のポイント」は、児童が東京都小学生科学展に向けて研究を進めていく際の指導のポイントをまとめたものです。夏季休業中などに課題として取り組ませる場合の事前・事後の指導等に使えるよう、「事前指導のポイント」、「研究を深めさせるポイント」、「レポート指導のポイント」の三つの視点から構成しています。

1 事前指導のポイント

研究のテーマは、一つの題材について、浅く広いテーマを設定することよりも、その中で特に疑問をもったことについて、深く研究するためのテーマを設定していくことが大切です。

身近な生活の中にある素朴な気付きや疑問を基に児童がテーマを設定できるようにしましょう。

(1) 研究テーマを決める。

- 児童の日常生活の中から素朴な気付きや疑問を取り上げ、小学生らしい着想に基づく研究テーマを設定させる。
- どのようなきっかけから、その問題に興味をもったのか、研究を始める理由を具体的に考えさせる。
- 研究の目的を明確にし、それに基づいて研究内容、方法を考えさせる。

2 研究を深めさせるポイント

観察・実験を行うときは、見通しをもって取り組ませることがとても大切です。

夏季休業中などに課題として取り組ませる場合には、「テーマ→予想→観察・実験→考察」といった問題解決の過程に沿って、観察・実験を行うように事前指導を行うとよいでしょう。

(1) 予想や仮説を立てる。

- 単なる勘ではなく、これまでの学習や日常での経験、日頃考えていることなどを基に予想させる。

(2) 観察や実験の方法を考える。

- 予想を確かめるために、何をどのように観察をするのか、どんな材料でどのように実験をするのかなどを考えさせる。
- 調べるために必要なものを考えさせる。
- いつまでに、何をするのかを考えさせる。
- 観察・実験を行うに当たって、気を付けること、危険なこと、危険な場所について考えさせる。

(3) 観察・実験の道具や材料を準備する。

- 実験の道具を作るときは、出来上がりを想像して設計図（絵）に表してから、作らせる。

(4) 観察・実験をする。

- 計画にしたがって、観察や実験に取り組ませる。
- 観察・実験の結果や気付いたこと等を、ノートなどに記録させる。
- うまくできなかったときは、どこがよくなかったのかを考えてもう一度行わせる。

3 レポート指導のポイント

研究を通して考えたことや分かったことは、他の人に分かりやすいようにまとめていくことが大切です。また、研究がさらに次の研究につながっていくよう、まとめ方を工夫させましょう。

(1) 研究の結果をまとめる。

- 文章だけでなく、絵や写真、図表を使うようにさせる。
- 文字や図表の大きさ、色使いを工夫させる。
- 図やグラフ、写真等を使って、観察・実験の結果を正確に書かせる。
- 研究の過程で得られた全てのデータを作品の中に入れ込まず、十分に吟味し、精選させる。
- 展示したときの全体の状態を考えながら、まとめさせる。
- 研究で参考にした文献や資料、教師の指導・助言、引用したデータ等について、その出典等が分かるように明記させる。（書籍：著者名・発行年・タイトル・出版社、ホームページ：サイト名・URL）